



## 2024年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年2月8日

上場会社名 株式会社 エコミック  
コード番号 3802 URL <https://www.ecomic.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東 札  
TEL 011-206-1103

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	1,743	3.3	177	4.1	194	8.6	135	13.7
2023年3月期第3四半期	1,688	21.2	170	16.0	179	23.2	119	5.3

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 143百万円 (27.2%) 2023年3月期第3四半期 112百万円 (11.9%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	35.43	
2023年3月期第3四半期	31.29	

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	2,133	1,420	66.6	370.81
2023年3月期	1,717	1,299	75.7	340.58

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 1,420百万円 2023年3月期 1,299百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2023年3月期	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期		0.00		8.00	8.00
2024年3月期(予想)				8.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,393	8.0	225	10.4	237	7.6	175	2.8	45.87

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期3Q	3,831,200 株	2023年3月期	3,815,600 株
期末自己株式数	2024年3月期3Q	60 株	2023年3月期	60 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期3Q	3,823,822 株	2023年3月期3Q	3,807,031 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.311「当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、企業収益の改善や個人消費の持ち直しなどにより、景気が緩やかに回復しております。先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待されています。ただし、世界的な金融引締めに伴う影響や中国経済の先行き懸念など、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、中東地域をめぐる情勢、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある状況となっております。

当業界におきましては、労働力人口の減少や、定期給与及び現金給与総額の増加など、雇用・所得環境が変化する中で、企業の人材不足や労働環境の変化、SDGsへの取組み等を背景に、企業の効率化、省力化への動向が続く、事業再構築やBCP（事業継続計画）の手段としてのアウトソーシングニーズは引き続き高い状況でありましたが、その分競争環境も激化しております。

そこで当社グループは、経営方針にある「お客様への価値あるサービスの提供」として、顧客企業に対しバックヤード業務に係る人材、時間等の経営資源をより価値の高い本来業務へ転換していただくことによるコストの削減、顧客企業の生産性向上の観点から、HRテックの導入などのDXの推進や、アウトソーシングサービスの提案を行い、あらゆる企業から管理部門のルーティンワークを無くすべく、「バックヤード業務のソリューションプロバイダー」として付加価値の高いサービスの提供を行ってまいりました。また、社員一人ひとりが顧客企業に対して提供すべき価値をエコミックブランドステートメントとして定め、「信用と品質に基づくプロ集団が、ソリューションを提供する」という方針のもと、顧客企業へのソリューション提案を強化してまいりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の経営成績については、売上高は1,743,951千円（前年同四半期比3.3%増）、営業利益は177,358千円（前年同四半期比4.1%増）、経常利益は194,523千円（前年同四半期比8.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は135,491千円（前年同四半期比13.7%増）となりました。

各セグメントの業績は以下のとおりであります。

#### (BPO事業)

BPO事業については、前連結会計年度に引き続き既存顧客との関係強化及び積極的な営業活動に取り組んでまいりました。前年同四半期に比べ、新規顧客の導入関連売上は減少した一方、給与計算処理人数及び年末調整処理人数が増加し、BPO事業の外部顧客への売上高は1,656,384千円（前年同四半期比5.7%増）、営業利益は184,894千円（前年同四半期比9.9%増）となりました。

#### (ソフトウェア・ハードウェア開発事業)

ソフトウェア・ハードウェア開発事業については、株式会社ビズライト・テクノロジーの主力事業としてAI及びIoTに関連するハードウェア製品、ファームウェア製品、そして受託ソフトウェア開発等を行ってまいりましたが、戦略分野への事業集中のため経営資源の見直しを行い、受託ソフトウェア開発及び保守に注力した一方、ハードウェア開発分野を縮小した結果、ソフトウェア・ハードウェア開発事業の外部顧客への売上高は87,566千円（前年同四半期比27.7%減）、営業利益は7,891千円（前年同四半期比54.2%減）となりました。

### (2) 財政状態に関する説明

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は1,732,014千円となり、前連結会計年度末に比べ460,686千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が338,148千円減少した一方、年末調整処理業務に係る売上高の計上等により、売掛金が800,079千円増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度と比較して44,654千円減少し401,606千円となりました。これは主に敷金及び保証金が21,784千円増加した一方、器具及び備品が20,872千円減少したこと及びソフトウェアが24,483千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は2,133,621千円となり、前連結会計年度末に比べ416,032千円増加いたしました。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は601,711千円となり、前連結会計年度末に比べ323,862千円増加いたしました。これは主にその他の流動負債が80,987千円減少した一方、短期借入金金が350,000千円増加したこと及び買掛金が57,344千円増加したことによるものであります。固定負債は111,292千円となり、前連結会計年度末に比べ28,957千円減少いたしました。これは主に繰延税金負債が8,207千円増加した一方、長期借入金金が37,170千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は713,003千円となり、前連結会計年度末に比べ294,904千円増加いたしました。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,420,617千円となり、前連結会計年度末に比べ121,127千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が104,967千円増加し

たことによるものであります。

この結果、自己資本比率は66.6% (前連結会計年度末は75.7%) となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年5月10日に発表いたしました2024年3月期 (2023年4月1日～2024年3月31日) 通期の連結業績予想に変更はございません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,049,289	711,140
受取手形及び売掛金	166,408	966,487
製品	5,993	5,415
仕掛品	446	—
原材料	3,886	905
その他	45,385	48,635
貸倒引当金	△82	△571
流動資産合計	1,271,328	1,732,014
固定資産		
有形固定資産		
工具、器具及び備品 (純額)	81,919	61,046
その他 (純額)	9,463	8,592
有形固定資産合計	91,382	69,638
無形固定資産		
ソフトウェア	205,560	181,076
のれん	63,970	52,216
その他	4,694	5,280
無形固定資産合計	274,225	238,573
投資その他の資産		
繰延税金資産	8,384	8,384
敷金及び保証金	36,818	58,602
その他	35,450	26,407
投資その他の資産合計	80,652	93,394
固定資産合計	446,260	401,606
資産合計	1,717,589	2,133,621
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	22,113	79,458
短期借入金	—	350,000
1年内返済予定の長期借入金	33,930	25,826
未払金	42,863	8,172
未払法人税等	6,508	46,809
その他	172,433	91,445
流動負債合計	277,848	601,711
固定負債		
長期借入金	132,223	95,053
繰延税金負債	5,288	13,496
その他	2,738	2,742
固定負債合計	140,250	111,292
負債合計	418,099	713,003

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	364,501	368,791
資本剰余金	199,416	203,706
利益剰余金	703,055	808,022
自己株式	△36	△36
株主資本合計	1,266,937	1,380,484
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	32,552	40,132
その他の包括利益累計額合計	32,552	40,132
純資産合計	1,299,489	1,420,617
負債純資産合計	1,717,589	2,133,621

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	1,688,859	1,743,951
売上原価	1,156,835	1,199,121
売上総利益	532,023	544,830
販売費及び一般管理費	361,701	367,471
営業利益	170,321	177,358
営業外収益		
受取利息	646	2,139
受取手数料	1,723	4,549
助成金収入	3,684	6,504
保険解約返戻金	—	6,437
その他	4,474	2,060
営業外収益合計	10,529	21,691
営業外費用		
支払利息	1,167	1,315
為替差損	—	2,864
その他	542	346
営業外費用合計	1,710	4,526
経常利益	179,140	194,523
税金等調整前四半期純利益	179,140	194,523
法人税等	60,017	59,031
四半期純利益	119,123	135,491
親会社株主に帰属する四半期純利益	119,123	135,491



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	119,123	135,491
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△6,614	7,580
その他の包括利益合計	△6,614	7,580
四半期包括利益	112,509	143,072
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	112,509	143,072

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。